

平成28年9月吉日
(公財) 日本ソフトボール協会
専務理事 高橋 清生
総務委員長 竹島 正隆

あくしゅ、あいさつ、ありがとうの実践について (お願い)

日本体育協会ではフェアプレイの具多的な実践として「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」を勧めています。この度のオリンピックにおいてはどの競技でも試合終了後、相手と審判員に握手をしていました。また、甲子園の高校野球においてもお互いの健闘を称えあう握手がありました。

日本のソフトボール競技においては、ゲームを始める時と終わった時に審判員と対戦相手に「お願いします」、「ありがとうございました」のあいさつをしますが、対戦相手に互いの健闘を称えあう「あくしゅ」をする光景が少ないようです。

また、試合前・終了時に相手と審判にしっかりと感謝を込めた挨拶をするチームも少ないようです。一方、試合終了後主将またはチーム全員が相手の監督や本部役員にあいさつをする光景を見ます。試合終了時のあいさつは相手の監督にもあいさつをすることであり、また審判に向かってのあいさつは、審判ばかりではなく役員・観客に対して感謝のあいさつです。何度もあいさつを行うよりも感謝の心を込めることが大切かと思いますので試合でのあいさつは始まる前と終わりの2回をしっかりと行えばそれ以上行う必要がないと思います。

日本のソフトボール界でも「あくしゅ、あいさつ、ありがとう」を実践し広めたいものです。